

「想像力のスイッチを入れよう」

—情報を整理し、表現につなげる—

関西大学初等部

西勝巳^{にしかつみ}先生 × 五年生^{ごねんせい}（29名）

「想像力のスイッチを入れよう」は、事例と意見の関係を押さえて読み、考えをまとめることを目標とした説明文です。

西先生の授業のねらいは、「情報を整理したうえで、それをいかにして自分の表現にもつていくか」というところにあります。文章をしっかり読み取ることを通して思考力を高め、それを表現につなげていく手立てについてご紹介します。

3・4時

事例と意見の関係を捉える

キーワードは
何かな？

本時は、おおまかな文章構成をつかみ、事例と筆者の意見を整理したうえで、キーワードである「想像力のスイッチ」に着目する活動を行います。

全文を三つのまとまりに分け、事例と意見にサイドラインを引くところまで学習はスムーズに進みました。事例と意見のつな

児童 本文に何回も登場する言葉がキーワードだと思う。

先生 ああ、なるほど。大事な言葉だから、何回も出てくるということだね。

児童 じゃあ、どれが多いか数えてみればええやん。

児童 賛成！ でも、一人で数えるのは大変だから、グループの中で分担して数えるのがいいと思う。

予想した言葉が本文に何回登場するのか、全員で数えてみることにしました（次ページ※1）。

しかし実際に数えてみたところ、子どもから疑問の声ががります。

児童 多ければ多いほど大切なのかな？

児童 たくさん出てくるけど、キーワードとはいえない言葉もあるよね。

先生 それはどういうこと？

児童 たとえば「報道」とかは、筆者の考えとは、直接の関係はなさそう。

先生 単純に出てくる回数だけで決められないということだね。

児童 まとめのところに出てくる言葉がキーワードじゃないかな。

指導計画（全8時間）

第1次

1時

- ・メディアについて知っていることや経験したことを伝え合う。
- ・全文を読み、初発の感想を書く。

2時

- ・初発の感想の交流。
- ・学習課題づくり。

第2次

3時

- ・本文シートをノートに貼る。
- ・おおまかな文章構成をつかむ。
- ・キーワードの確認。

4時

- ・事例と筆者の意見の関係を捉える。
- ・「想像力のスイッチ」という表現に着目する。

5時

- ・「想像力のスイッチ」について考え、自分の意見をもつ。
- ・「メディア側の努力」について考える。

6時

- ・「メディア側の努力」についての意見交流。
- ・本文中の比喩表現のリライト。

第3次

7時

- ・「メディアとどう関わるべきか」自分の意見をまとめる。

8時

- ・前時に書いた文章を読み合う。

かりを可視化させることで、四つの「想像力のスイッチ」（『事実かな、印象かな』『他の見方もないかな』『何がかくれているかな』『まだ分からないよね』）にも自然に目を向けることができました。

ここからが、本時の指導ポイントです。

先生 この文章には、「想像力のスイッチ」以外に、キーワードはないのかな？

「想像力のスイッチ」という言葉に込め

られた筆者の考えを詳しく読み取るために、西先生はこのような問いかけをしました。子どもたちは、次の言葉がキーワードではないかと予想しました。

【予想】メディア、情報、想像、事実、印象、見方、報道

ここで、子どもたちにさらに考えさせます。

先生 たくさん出てきたけれど、どれが本当にキーワードなんだろうね。

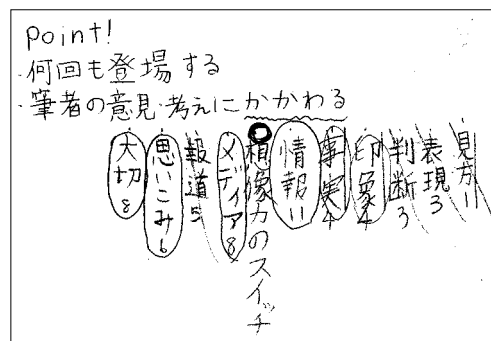


▲※2 話し合いながら、班の意見をホワイトボードに書き込んでいく。

という疑問は、二時に子どもから出されたものでした。ここでその学習課題を提示し、班ごとに話し合う時間を設けました(※2)。

授業者より本時のポイント

こうしたキーワードの絞り込みも、情報整理の一つといえます。子どもたちは、意味をもたない情報整理はしたがりました。今回は、子どもから「数えてみよう」という提案がありました。実際にやらせて納得させることで、必然性のある情報整理となり、主体的な読み取りへとつながりました。



▲※1 児童のノート。これらの言葉が本文に何回登場するか数えたもの。初めは、「見方」「報道」などの言葉がキーワードではないかと予想したが、学習する中で、「思いこみ」「大切」という言葉に気がついた。

新しく提案された観点でもう一度考え直した結果、「思いこみ」「大切」といったキーワードが新たに出てきたら、「見方」や「報道」は、キーワードの候補から外れることになりました。

5時

教材に近づく、自分の意見をもつ スイッチの 優先順位は？

授業の冒頭、西先生は、「今日は、『四つの想像力のスイッチ』についてもう一度考えてみたいと思います」と言いながら、四つのスイッチを板書しました。

- A 事実かな、印象かな
- B 他の見方もないかな
- C 何がかくれているかな
- D まだ分からないよね

先生 この四つは、具体的にはどういうことと分かるか？

前時までは、教材文をもとに、筆者の考える「想像力のスイッチ」について考えましたが、子どもたちがこの言葉を具体的にイメージできているかどうか確認するために、このような問いかけをしました。

「事実かな、印象かな。」について

児童 それが本当のことか、単なる思い込

みか考えるということ。

児童 ネットで買った物が、広告で見た物よりも小さくて、実際と印象は違うことがあると思った。

児童 本当のことなのか、デマなのか。

先生 デマって何？

児童 事実とは違う……、うその情報。

「他の見方もないかな。」について

児童 答えは一つじゃなくて、他の答えもないかなって考えること。例えば、百円のお小遣いで、「たった百円か」って考える人もいるけど、「うまい棒がいっぱい買えるやん」っていう考え方もある。

児童 一つの方向だけでなく、多方面から見るということ。

抽象と具体をできるだけたくさん往復させることで、子どもたちを教材文に近づかせます。

先生 ところで、この四つのスイッチに優先順位であると思う？ いちばん大切なのは何か、という言い方をしたほうが分かりやすいかな。

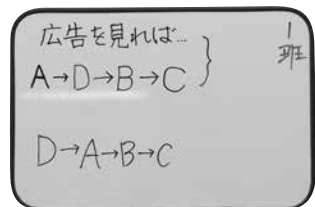
「四つのスイッチに優先順位はあるのか」

一班の話し合い

児童 Aを考えたからBが出てきて、Bを考えたからCが出てきて……。だから、A→B→C→Dの順でしょ。

児童 教科書182ページの五行目に、「最後に、いちばん大切なのは」って書いてある。だからDがいちばんだよ。

児童 筆者はそうかもしれないけど、私は違うなあ。例えば、広告を見たときに、最初から『まだ分からないよね。』って考えへんよ。『事実かな、印象かな。』が先だと思う。



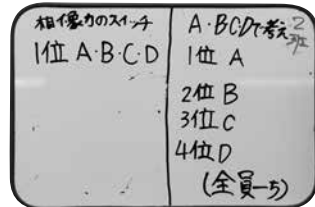
二班の話し合い

児童 筆者が伝えたいのは「想像力のスイッチ」という言葉でしょ。その言葉が成り立つためには四つ全部必要だから、順番はつけられへんよ。

児童 全部大事なのは分かっているけど、その中でどれがいちばんのかを考えるんですよ。

児童 全部一位だよ。

児童 うーん、そうかなあ。

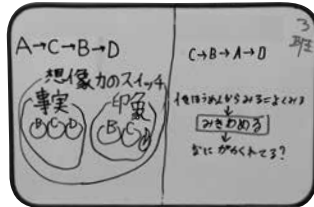


三班の話し合い

児童 「想像力のスイッチ」っていう大きなマルの中に、「事実」と「印象」があって、そこからB、C、Dを考えるんだと思う。

児童 そうかな？ まず、Cの『何がかくれているかな。』を考えて、それが「事実」なのか「印象」なのか考えるんじゃない？

児童 最初がAなのかCなのか迷うけど、最後はDだよ。



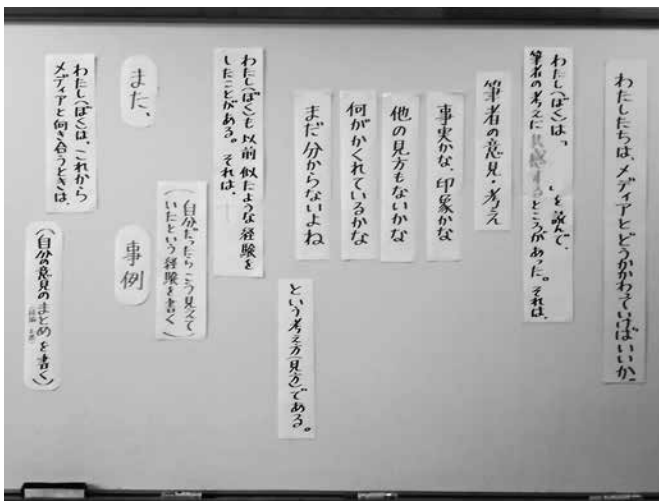
授業を終えて

説明文では、何が（内容）どのように（表現）書かれているかを
読み取っていくことが大切です。
内容と表現をうまくつなげて読み
取るためには、子どもたちに論理
（つながりとその理由）を気づか
せることから始めます。本単元で
は「想像力のスイッチを入れよう」
とは何かについて、叙述から情報
を取り出し、その情報に自分の知
識や体験を重ねながら、考えを整
理したり広げたりしていくような
探求的な思考力と、伝えたい・伝
えるべきことを論理的に記述して
いけるような表現力を鍛えること
を旨としました。本活動が新しい
学習指導要領の新設事項「情報の
扱い方」を取りあげるうえでのポ
イントになると考えています。



にし かつ み
西 勝巳

兵庫県神戸市生まれ。神戸大学附属小学校
在職中より、国語科は技能教科であるとの視
座から、「話す・聞く」「読む」「書く」の表現
力向上を旨とした実践研究をしている。主に
兵庫県下で、各地域・学校の研究テーマに合
わせた国語教育の推進にも取り組んでいる。



▲※3 「わたしたちはメディアとどうかわっていいか。」のモデル文型。

【児童のノートより】

わたしは、「想像力のスイッチを入れよ
う」を読んで、筆者に共感するところがあ
りました。それは、「事実かな、印象かな。」
と考えてみるのが大切。」という文章です。
わたしも事実なのか印象なのか、よく考
えるべきという経験がありました。よくス
マホに特別セールのちらしなどのお知らせ
がとどきます。わたしは、聞いたことがな
いお店だと、うその情報かなと思います。
(中略)

授業の初めにモデル文型を示しまし
た。モデルがなくても、これまでの学習
内容をもとに書くことができる子どもは
大勢いますが、一人でもつまずくことが
ないよう、今回のような支援を行いまし
た。これまで六時間にわたって積み上げ
てきた学習を、「書けなかった」で終わ
らせてはならないと考えたからです。
また、もう一つの支援として、書く活
動の前に、自分の体験を班の友達に伝え
合う時間を設けました。友達の話がヒ
ントになったり、自分の考えがまとまっ
たりする効果があるからです。活発に伝
え合う姿から、「思考力を高め、表現につ
なげる」というねらいが達成できたこと
を感じました。

授業者より本時のポイント

そう言いながら、あらかじめ準備してお
いたモデル文型の短冊をホワイトボードに
提示しました（※3）。

書きだしの一文と、結論の書きだし方は
具体的に示し、書くことが苦手な子どもで
も取り組みやすいようにしました。また、
自分の体験（どのスイッチと関連している
のか）を必ず入れるように伝えました。

7時

自分の考えをまとめる
メディアとどう
関わるべきか？

いよいよ本時は、自分の考えをまとめる
時間です。西先生はさっそく、学習課題を
提示しました。

先生 「わたしたちはメディアとどうかか
わっていいか。」これが、今日の課
題です。自分の主張をしっかりとノートに書
いてもらおうと思います。

その前にひとつ。書くときのモデルを提
示しておきます。このとおりに書きなさい、
ということではないですよ。参考にしてみ
てください。

授業者より本時のポイント

筆者が大切だと考えているのは『まだ
分らないよね』でしたが、子どもた
ちの大多数は、『事実かな、印象かな。』
が大切だと考えていました。この筆者と
の距離感（ずれ）をきっかけに、子ども
自身の考えを明確にさせたいと考えまし
た。また、『まだ分らないよね。』をヒ
ントにして「メディア側の努力」につい
て考えることで、①②のような「正確さ」
に関する意見を出すことができました。
「情報の扱い方」という点でポイント
になるのは、班ごとの話し合いです。自
分の意見と他者の考えを客観的に検討し
ていくことで、情報整理の力が育まれま
す。

二十分ほど話し合ったあと、それぞれの
班のホワイトボードを教室の前に並べて、
意見を共有する時間を設けました。班ご
との発表のあと、西先生は子どもたちにさら
に考えさせます。

先生 みんなが大切だと思ったのは、Aが
多かったね。でも、筆者が大切だと思っ
ているのは……。

児童 Dの『まだ分らないよね。』

先生 筆者は、なぜDが大切だと思ったん
だろう。

西先生は、この答えをすぐには求めず、
これが次の課題「メディア側の努力」につ
いて考えるヒントになると伝えました。各
自、三分間で思いつくことを書き、その後
クラス全体で共有する時間を設けました。

【子どもたちから出た意見】

- ① 誤った思い込みを伝えないようにする。
- ② 公正・公平に伝える。
- ③ 一度に全てのことを伝えきれないので、
大事だと思つことを選ぶ。
- ④ 少しでも早く伝える。

本文には、情報を受け取る側の努力は書